

祭りの磁力

湯立神事、水掛け祭り、船渡御に水こり。
祭りとは深いつながりがあるようです。

水は生命の源だから、神と関係が深いのは当たり前。
そんな風に理解してきましたが、
果たして本当にそうなのか。
八万の神というけれど、
祖霊は神様なのか仏様なのか。
祭りの持つスピリチュアルな側面は、
今の私たちにどう継承されているのか、いないのか。

日本人は祭り好きというけれど、
ちょっと考えてみると、実はわからないことだらけ。
まち起こしや異世代間交流や伝統文化の継承といった、
現代における祭りの機能を語るにも、
そもそも祭りとは何かがわからなくては話になりません。

そう考えて、私たちの暮らし方を見回せば、
神様や仏様は
ずいぶんと遠ざかっているようにも思えます。

現代の私たちにとって、祭りとは何か。
古代の日本人の神意識まで遡って、
もう一度見直してみました。

水の文化 37号 2011年2月

特集「祭りの磁力」

生活行事のすべてが祭り	神崎宣武	4
田の神祭りに見る日本人の神意識	森田 悌	14
地域の祭り〈霜月祭り〉	鎌倉直衛	22
地縁が息づく神様王国	尾寄彰廣	30
都市の祭り〈天神祭〉	合田博子	38
浪花商人の元気で牽引	尾寄彰廣	30
社会があるから文化がある	合田博子	38
水文化楽習実践取材	編集部	44
守り伝えるための〈お弓〉の仕組み	編集部	44
文化をつくる祭りの磁力	編集部	51
水の文化書誌	古賀邦雄	52
水の信仰・祀り・祭り	古賀邦雄	52
古賀市ふるさと見分け	阿部友子	54
シリーズ里川	阿部友子	54
水の文化交流フォーラム2010報告	阿部友子	58
インフォメーション	阿部友子	59



本番に向けて練習が続く射放弓しゃほうきゅう (本文44ページ)

〈お弓役〉に選ばれた2名の若者が、前年の〈お弓役〉から作法を伝承される。仕事の帰りに吉浜八幡社に集まり、肉体的にきつい動作を身につけていく。本番が近づくにつれ、焦りと緊張感が増していくのが、見ている側にもびりびりと伝わってくる練習風景。2010年〈お弓役〉の坂本和也さん(左ページ)と弟の直敏さん(右ページ)。